

小論文試験問題出題の意図

10代の処方薬乱用が問題となっている。2018年度に行われた全国の有床精神科病院を対象とした調査からは、主たる乱用薬物の47.1%が処方された睡眠薬・抗不安薬、および市販薬であることが明らかにされている。中高生は授業のカリキュラムの中で薬物乱用防止教室を受けているが、薬物乱用防止教室の大部分は「ダメ。ゼッタイ。」の考えに基づくものである。しかし、10代で問題となる中心的な薬物が合法薬物であることを踏まえると、薬物乱用について違法か合法かに焦点を当てた既存のアプローチには限界がある。

そこで、前述の薬物乱用防止教室とは異なるアプローチがあることを示唆する文章を提示することで、自身が経験してきたような視座とは異なる意見に触れたときに、受験者が相手の意見を的確に理解した上で、自分の立場を明らかにし、そして、どのように行動するかまでの一連の流れを表現させる。

以上により、思考力、判断力、表現力をみようとすることである。